七戸町立鷹山宇一記念美術館

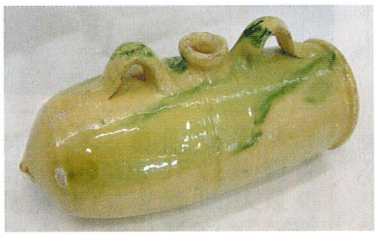
第56号
【平成21年9月15日】

SUPPORTERS CLUB NEWS
友の会 会報
TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501
青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94
七戸町立鷹山宇一記念美術館内
鷹山宇一記念美術館友の会
〈TEL〉0176-62-5858 〈FAX〉0176-62-5860
〈e-mail〉takayamamuseum@ruby.plala.or.jp

ｳｴｻ･ﾃﾞﾙ･ｺﾑﾝの素焼き壺(1930年頃、ﾃﾙｴﾙ県)

ﾀﾗﾍﾞﾗ･ﾃﾞ･ﾗ･ﾚｲﾅの大皿(17世紀、ﾄﾚﾄﾞ県)



ｸｴﾝｶの湯たんぽ(1920-1930年頃、ｸｴﾝｶ県)

ﾄｩﾙﾋｰﾘｮのかまど(1965年頃、ｶｾﾚｽ県)

ｼｳﾀﾞﾃﾞﾗの漁船用水差し(1960年頃、ﾒﾉﾙｶ島)

ﾍﾞﾙﾄﾞｩの水かめ(1930-1940年頃、ﾘｪｲﾀﾞ県)

「スペインのやきもの」

鷹山宇一記念美術館の付属施設・スペイン民芸資料館では、スペイン各地の、いずれも生活の中で実際に使用されてきた陶器を紹介している。とは言っても、春・夏と特別展が開催されると、ガラス張りの展示スペースが少ない当館において、スペイン民芸資料館は絶好の会場として重宝してしまい、軸装や屏風などの傷みやすい作品たちの展示に使用されて、肝心要の主たちースペインのやきものたち、は、なかなか登場することができないでいるのが現状だ。つい先日もお客様から「いつ行っても見たことがない」と、お叱りを受けたばかり……スミマセン。

それで、これらの「スペイン陶器」であるが、どういうものであるかというと、国内外の美術展や芸術祭を多数プロデュースされ、アートディレクターとして今まさにご活躍中の北川フラム氏のコレクションから、当館開設当初に七戸町に寄贈されたもので、全285点に及ぶ。時代は1900年代がほとんどだけれど、古いものでは17世紀、と言われるトレドの「大皿」があったり、「水かめ」「葡萄酒用の大かめ」やお嫁入り道具の「飾り壺」、そして、そんな用途とは全く想像のつかない彩色された「し尿器」、埴輪を彷彿させるヒトの顔のようなユニークな「かまど」などなど、スペインの人々のくらしと温もりを、今に伝えてくれる素朴な生活雑器たちである。

そう言えば10年前、友の会設立以来初、第1回海外研修旅行でスペインを訪ねた時、ダリのアトリエ「卵の家」がある小さな漁村ポルト・リガットへ向かうバスの車窓からみた民家や、そのこぢんまりした路地の家々の庭に、今はオブジェのようにゴロンと置かれていた「かめ」などの陶器があったことを、懐かしく思い出す。地中海の青い海と青い空、自生するオリーブの緑に囲まれて、迷路のような石畳の小径を歩きながら、スペインという国、そして人々の「美意識」を肌で感じたものだった。さすがは芸術大国！ベラスケス、ゴヤ、ガウディ、ピカソ、ミロなど、誰もが一度はその名を耳にしたことがある、万国共通の偉大なアーティストを輩出したこの国の芸術も、確かに風土の中で育まれているのだと体感した。「スペインのやきもの」は、民衆の、生活の中で生まれた「用の美」であり、それは、スペインという国の芸術の根底とも言えるものだと思う。

大国ならではの、ドッシリとしていておおらかな、味わい深いスペインの陶器を、是非この機会にお楽しみいただきたい。11月8日迄展示中！

（学芸員　大池亜希子）

平成21年度友の会第3回国内研修旅行

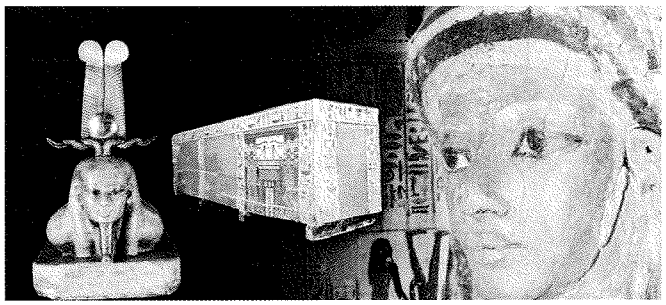
吉村作治の 新発見! エジプト展 ～国立カイロ博物館所蔵品と～

吉村作治の《新発見！ エジプト展》～国立カイロ所蔵品と～

好評の友の会研修旅行。平成21年度第3回目の研修旅行は、青森県立美術館において吉村作治の「新発見！ エジプト展」を鑑賞いたします。

皆様のご参加をお待ちしております。

◆研 修 先　青森県立美術館
◆日　　時　平成21年10月25日(日)
◆募集人員　先着　44名
◆参 加 費　4,000円(バス代・入館料・昼食代含む)
◆申込期限　平成21年10月18(日)
◆日　　程
◇午前8時30分　七戸南公民館出発～鷹山美術館～
有料道路経由
◇午前10時　青森県立美術館着
◇日程の詳細は、後日参加者にお知らせいたします。



2005年1月、ダハシュール北遺跡で吉村調査隊長は3800年前の未盗掘ミイラの青いミイラマスク「セヌウ」を発見。その2年後の2007年1月、エジプト考古学史上初となる夫婦ミイラの未盗掘木棺と黒い人型棺、さらに10月には親子ミイラ発見という快挙を成し遂げました。

本展では、夫婦、親子ミイラの未盗掘木棺が世界に先駆けて日本で初公開されるとともに、ツタンカーメン王の黄金のマスクをはじめとする古代エジプト美術のコレクションで世界随一を誇る国立カイロ博物館所蔵の至宝、70点を加え、「古代エジプトのミイラと死生観」をテーマに展示!!

（青森県立美術館パンフレットから転載）

" 新発見！ エジプト展 "
会 期　9月19日(土)～11月23日(月)
午前　9時 ～午後　6時

掘り出されるチャイの木棺

平成21年度友の会第2回研修旅行記

「忘れえぬロシア」

むつ市　山口和也

7月七戸場所から岩手県美まで、ロシア映画風雲急告ロシア劇的豪雨かなた岩手山が見えぬ『忘れえぬロシア』こなたエルブルース山ー月夜（メンデレーエフから指導された光の詩人クインジ）が仄（ほの）かに照らす忘れえぬ女（クラムスコイ）が作家なら文豪トルストイの肖像（ゲー）を見て忘れえぬ一節を作曲家なら超絶リストの弟子ピアニスト、ゾフィー・メンターの肖像（レーピン）を見て忘れえぬ一小節を冬の道（カーメネフ）あぜ道にて（レーピン）輝く静かな修道院（レヴィタン）の何たる透明感ゲーテやシラーをロシア語訳した大公の肖像（レーピン）もメンターの音色やシャリャーピンの歌声を聴けるなら①チケットと作品リストをトイレの壁上に置いたら天板がなく床から超絶2mハイジャンプ②先人記念館などへ行きチケットに再入場の押印③名画に見惚（ほ）れ足許のバーから美術館という美のプールへ飛び込む勢いで2時から女性ボランティアによる青春の松本竣介ガイド初もの尽（づく）しに帰りのスロープで他社の（②や③も）済チケットを拾った勢いで去るさMALLへさのさと発音したさんさならぬさくらワインが新発見できず小磯良平「肩かけをした少女」がラベルの神戸（赤）ワインを盛岡土産（みやげ）に♪外光派や印象派は雨の日に何を♪レーピンやレヴィタンが八甲田や奥入瀬を描いたら言葉のWALLを越え新訳ロシア文学を友に陶然の先人トレチャコフ美リポートの釜臥山にラフマニノフ「三つのロシアの歌」が♪

岩手県立美術館にて　H21.7.19

鷹山宇一記念美術館
News & Report
2009年9月15日発行

秋の特別展のごあんない

第69回国際写真サロン展

10月17日(土)→11月8日(日) 月曜休館

プロ・アマ、国内外を問わず応募できる全日本写真連盟・朝日新聞社が主催する国内では最も権威ある写真コンテスト「国際写真サロン」。その第69回展から審査委員特別賞6点を含む入賞入選作品、国内80点海外50点全130点を紹介します。

第69回展の審査を終えて、審査委員長で写真家の田沼武能氏は、「(前略)改めて感じるのは、現代的な感性や視点が作品に写し込まれていないと、上位入賞は難しいことだ。(中略)頭の中だけで考えた奥行きのない作品は、見ているうちに飽きがくる。体の奥底からにじみ出た感性を写真に表現して欲しい。(中略)いずれにしろ大切なことは、その人でなければ表現できない独創性であり、選者の目はその魅力に引かれる。」と総評しています。

当館では恒例の写真展としてご好評をいただいている本展は、人物、風景、演出を試みたものなど、日本をはじめ海外33ヵ国・地域の写真愛好家による、多彩な写真表現をお楽しみいただけます。是非ご鑑賞ください。

▲第69回国際写真サロン入選／坂尾富司さん(三重県)「花街寸景」(モノクロ)。第69回展では国内全都道府県から3,778点、海外33ヵ国・地域から4,418点の応募があった。

秋→冬の特別展のごあんない

第9回鷹山賞児童作品展／第9回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展

11月15日(日)→新年1月24日(日) 月曜／年末年始休館

本年第9回展を迎える鷹山賞児童作品展は、郷土出身の画家・鷹山宇一を顕彰し、青森県南部地方の小中学生に作品を公募した絵画コンテストです。あわせて入賞入選に輝いた約130点を美術館に展示し、ご紹介します。

9月15日応募を締め切り、ただ今審査会に向けて準備を進めているところですが、今年もたくさんの応募をいただきました。このコンテストを通じて、子どもたちが自由な創造の喜びを味わい、そして、その豊かな感性に一層磨きをかけていただけたなら、と切に願っています。

◀昨年の第8回鷹山賞児童作品展小学生の部・鷹山賞受賞作品「わっ、すごいかお」高舘唯華さん(八戸市立白銀南小学校1年)

また、鷹山賞児童作品展入賞入選作品の展示にあわせ、(財)日本品質保証機構、国際認証機関ネットワークが主催する、「地球環境」をテーマに世界各国の子どもたちに作品を公募した児童画コンテストから、優秀作品に選ばれた70点をご紹介します。

絵画は全世界共通の「ことば」なのだとあらためて感じさせてくれます。作品を介して、子どもたちの心と心の交流が深まることでしょう。

ご家族で是非ご鑑賞いただきたい展覧会です。本展をコミュニケーションの場としてご活用いただけたなら、望外の幸いです。

＊ Information ＊

【第69回国際写真サロン展】

■会　　期■10/17(土)→11/8(日)
■休 館 日■毎週月曜日
■入館時間■10:00→17:30
(閉館は18:00)
■入 館 料■一般600(480)円
学生300(240)円
小中学生100(80)円

※( )内は20名様以上の団体・県民カレッジ受講者、JAF会員割引料金

【第9回鷹山賞児童作品展】
【第9回地球環境世界児童画コンテスト優秀作品展】

■会　　期■11/15(日)→1/24(日)
■休 館 日■毎週月曜日
年末年始
■入館時間■10:00→17:30
(閉館は18:00)
■入 館 料■一般500(400)円
学生300(240)円
小中学生100(80)円

※( )内は20名様以上の団体・県民カレッジ受講者、JAF会員割引料金

＊友の会会員の皆様＊
特典どおりご入館いただけます

＊展示替え休館＊
10/13(火)→10/16(金)、11/9(月)→11/14(土)

今、わたしたちに、できること

戦没画学生慰霊美術館「無言館」収蔵作品による

ー祈りの絵画ー展

あなたに伝えたい、絵があります

■□■ Report ■□■

東奥日報社との共催による本展も、9/6(日)、43日間の会期を無事終了いたしました。会期中は県内外から9,150人もの多くのお客様にお出掛けいただきました。

□7月25日(土) 開催式・テープカット・レセプションパーティー

▶開催式では、共催の東奥日報社代表取締役社長・塩越隆雄様(写真上)よりごあいさつをいただいたほか、来賓を代表して青森県知事・三村申吾様【上北地域県民局長・丸井幸悦様(写真右下)代読】七戸町長・小又勉様(写真左下)よりご祝辞を頂戴しました。また今回、貴重な作品をお貸し出しくださった「無言館」館主・窪島誠一郎様からご挨拶を頂戴いたしました。

▲(左)テープカット。左から、鷹山増子当館名誉館長、無言館館主・窪島誠一郎様、七戸町議会議長・田中正樹様、青森県上北地域県民局長・丸井幸悦様、七戸町長・小又勉様、青森県遺族会会長・福村鐵男様、株式会社東奥日報社社長・塩越隆雄様、青山浄晃当財団理事長。(右)歌曲を披露する鷹山宇一孫・北村美緒さん。

□7月25日(土)【会場/柏葉館】窪島誠一郎氏講演会「無言館のこと」開催!

▼120名の聴講者を前に、無言館ができるまでのこと、無言館に収められた画学生たちのエピソードなど、約90分に渡ってお話しいただきました

□8月23日(日)【会場/美術館】窪島誠一郎氏×鷹山ひばり氏 対談会「絵のこと、戦争のこと」開催!

▶画学生たちの作品に囲まれて、熱く語り合うお二人の「トーク」に、約80名の聴講者は聞き入りました。「彼らの作品は、鑑賞した人が今をどう生きるか?を問うている」「人の通らぬ道に美しく咲いている花もある」窪島先生の言葉が印象的でした。

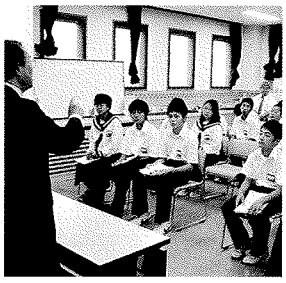
□7月26日(日) 来館者第1号のお客様は、十和田市立法奥小学校の家庭教育学級に参加の親子!先生23名様でした!

▲この展覧会がはじまる前から、綿密に計画を立ててご来館くださった法奥小学校の皆様。「何としても子どもたちに無言館の作品を紹介したい!」そんな熱い思いが伝わってきました。法奥小学校ではこの後も、あらためてバスの手配をして、4・5・6年生全員を連れてきてくれました。子どもたちも、画学生たちの思いをしっかりと感じ取ってくれていたことが、とても印象的でした。法奥小学校の先生方、保護者の皆様、このような機会を子どもたちに与えてくださったこと、本当に感謝感謝です!

＊会期中は、看視ボランティアをはじめ、多くの方々のご協力を賜り、「祈りの絵画展」を無事終了することができました。お力添えを賜りました皆様に、この場を借りて御礼申しあげます。本当に有り難うございました!

□8月27日(木)、28日(金) 六戸町立七百中学校1年A組、1年B組「祈りの絵画展」を鑑賞

▶「祈りの絵画展」がどのような展覧会なのか?戸舘館長から説明をうけたあと、1時間かけて作品を鑑賞しました。鑑賞終了後、質疑応答、学芸員から総括をして1日の日程を終了しました。生徒たちを連れてきてくださった先生方、本当に有り難うございました。



□8月25日(金)「祈りの絵画展」入館者5千人を達成

▲「画学生たちの気持ちに少しでも近づけたなら…」そのような思いで、5千人目となった中井紀子さん(中央)は、誘い合わせて友人3人と五所川原市からご来館くださいました。

「無言館～祈りの絵画展」へ お客様からのメッセージ

ーあなたに伝えたい、絵がありますー
そんな思いで開催をした本展。ご来館くださった多くの方々の心に、しっかりと、届いてくれていたことが何よりも嬉しかったです。来館されたお客様の感想から一部を抜粋してご紹介します。

○心をこめて絵を描くと、描いた絵を見た人は、うん、とうなずくと思います。（小学5年生・女子）

○大切なものや忘れられないものを絵に残していったんだと思います。僕も身近にあるものや人を、大事にしていきたいです。（小学5年生・男子）

○国の繁栄と引き換えに、失ったものの大きさを改めて感じました。（H・O）

○絵の善し悪し詳しくわかりませんが、心の奥が揺さぶられた気が致します。（60代・女性）

○私は、美術作品は、作品そのものを鑑賞すべきと思っていますが、この展覧会は別でした。もっと描きたかったという若者たちの切なる思いが、痛いほど伝わってきて見ていて苦しくなるほどでした。だからこそ、自由に描ける今の平和な世の中を守っていかねばと思いました。（50代・女性）

○父さんへ。毎日繰り返す戦争の時の話をいい加減に聞いてごめんなさい。今度は私が息子に、戦争のこと、うるさく言いますから。（無記名）

○最愛の息子や夫を戦地へ向かわせなければいけないつらさは、いかばかりだったことか、その心情を思うととても心が痛みます。いかに今現在を幸せに過ごしているかを改めて見つめ直す、良い機会になりました。（40代・女性）

○もっと絵を描きたかったのだと思います。でもその人は、絵の中で生きていると思う。（中学1年生）

○TVのCMを見て「行ってみたい」と独り言を言っていたのが、主人と休日が同じになり「行こうか！」と誘ってくれて来ることができました。今を一生懸命生きようと思いました。（40代・女性）

○無言とは、これ程大きな声とは知らなかった。（M・G）

○戦死した人達の愛がここにつまっている。ひたすら母を描く人、兄弟を描く人、好きだった景色を描く人、この愛を私達が守っていく義務がある。朱という色がこんなに見たくない時間はなかった。（16才・学生）

○僕は戦争を体験したことがないので、分からないけれど、つらかったんだろうとおもいました。「ふつう」が大事だとおもいました。（小学4年生・男子）

○笑っているような絵でも、心で泣いているような気がしました。（小学生）

○描かれていた空があまりにもきれいで、泣きたくなりました。（無記名）

○一生懸命、生きたいと、思います。（17才・学生）

○なぜ戦争がおきたのかわかりません。なければいいなと思いました。生きるって大事だなと思いました。絵をかいた人に会いたいです。この絵は一生わすれません。（9才・男子）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

●○●○●○●○ 美術館のワークショップから ○●○●○●○●

ウツド　カツターズ　クラブ
WOOD CUTTERS CLUB
ー木こりの工房ー
美術館あ～っと！くらぶ

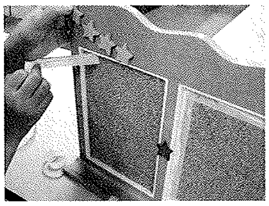
■「WOOD CUTTERS CLUB（ウッドカッターズクラブ）ー木こりの工房ー」

今年度の会員は、保育園年長さんから中学生まで総勢15名。これにボランティアで活動の補助をしてくださる高校生を数名迎えての活動となります。

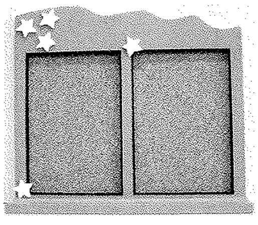
こちらの教室からは、7月5日、19日に行った「コルクボードづくり」の様子をご紹介します。

全2回で開催し、制作を通じてトールペイントの基本を学びました。

今回子どもたちが初めて挑戦した道具が『マスキングテープ』。「マスキング」は「覆い隠す」という意味で、ペンキなどを塗る際のはみ出しや汚れを防いだり、まっすぐに塗りたいときなどに使われるものです。このテープ、はがすときのすっきり感といったら、ほかに勝るものはありません。子どもたちは「まだ？」と、はがすタイミングを急かしていました。



色とりどり、手作りの素敵なコルクボードが完成しました。家族みんなの会話をつなげるアイテムになるといいですね。

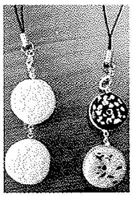


■「美術館あ～っと！くらぶ」

あ～っと！くらぶからは、8月8日に行った「夏休み工作教室 スイーツストラップづくり」の様子をご紹介します。

樹脂粘土という材料を使用して、本物そっくりなスイーツの制作に取り組みました。今回は、初心者でも気軽に取り組める「チョコソースドーナツ」と「オレオクッキー」に挑戦。材料は粘土なのですが、作る手順は、本当のお菓子をつくる過程とよく似ています。まずは愛情を込めること。何を作るにもこれが第一です。

卵や砂糖を混ぜる代わりに粘土に絵の具を混ぜて生地をつくります。形を整えたら、オーブンで焼く代わりにドライヤーで乾かし、筆で焼き色をつけます。たっぷりとチョコソースをかけ、カラースプレーやピーナッツクランチ（全て樹脂粘土製）を好きなようにトッピングして乾かします。甘い香りが漂いそうなストラップの完成です！



●美術館日誌●

【6月】

▼3日／ケアハウス幸徳3名様、ケアハウス幸陽1名様ご来館
▼7日／茶道裏千家七戸会による「お呈茶」開催
▼9日／シルバーアクセサリー教室開催(七戸町役場職員組合女性部)
▼10日／青森県立七戸養護学校生徒引率教員ご来館
▼11日／十和田市立切田中学校生徒引率教員ご来館。市ノ沢婦人会21名様ご来館。大池さいたま市主張(平野四郎作品借用)
▼12日／平賀町青色申告会20名様ご来館。英進塾9名様ご来館。鷹山宇一作品資料調査(七戸町内)
▼13日／弘前調停協会32名様ご来館。七彩会油絵教室
▼14日／「桜・富士山展」最終日
▼15日／町内老健施設利用者無料招待日。展示替えのため臨時休館(19日迄)
▼16日／東京マルイ美術「桜・富士山展」作品搬出。A重油タンク定期点検
▼17日／冷暖房切替作業(オキタ工業)。スペイン民芸資料館雨漏り点検修理(斎下産業、オキタ工業)
▼20日／開館15周年記念常設展「鷹山宇一と七戸ゆかりの画家たち展～鳥谷幡山、平野四郎、上泉華陽」初日。友の会総会、記念講演会(講師・棟方志功記念館学芸員武田様)を開催
▼21日／七彩会油絵教室
▼24日／道の駅駐車場工事打合せ。デーリー東北新聞社「息づくふるさと」記事掲載のため絵馬館取材
▼25日／町立城南小学校3年生、6年生児童引率教員ご来館。戸舘館長東京出張(来年度事業等打合せ)
▼27日／美術館あ～っと！くらぶ「白黒木版画づくり①」開催
▼28日／友の会会報55号発送作業
▼30日／消防設備定期点検(昭和電気)

【7月】

▼1日／鳥谷幡山画伯孫・野谷善達様ご家族でご来館
▼2日／東奥信用金庫とうしん大学74名様ご来館。青森朝日放送「プリウスエコドライブ」当館を取材
▼3日／東奥信用金庫とうしん大学75名様ご来館
▼5日／岩手県北観光・華月流55名様ご来館。WOOD CUTTERS CLUB「コルクボードづくり①」開催
▼7日／町立城南小学校4年生、5年生児童引率教員ご来館。東奥信用金庫とうしん大学79名様ご来館
▼8日／東奥信用金庫とうしん大学72名様ご来館。絵画保険更新手続き
▼9日／南部サミット担当企画課長ご一行様ご来館
▼11日／平野四郎画伯三男・平野勝史様ご来館。美術館あ～っと！くらぶ「白黒木版画づくり②」開催
▼16日／当館2階工房に於いて「国道394号整備促進期成同盟会」会議開催、出席者館内観覧。戸舘館長「七戸町まちづくりの会理事会」に出席
▼18日／戸舘館長、大池八戸市出張(八戸市美術館「鈴木コレクション展」開催式出席)。弘前工業高等学校PTA37名様ご来館
▼19日／WOOD CUTTERS CLUB「コルクボードづくり②」開催。友の会研修旅行開催(岩手県立美術館)
▼21日／展示替えのため臨時休館(～25日迄)
▼22日／「無言館－祈りの絵画展」作品搬入、展示作業。無言館より窪島誠一郎様、正村欣生様ご来館。青森放送搬入・展示風景を取材(～23日迄)
▼25日／「無言館－祈りの絵画展」開催式、記念講演会「無言館のこと」開催(講師・窪島誠一郎氏、聴講者120名)。上北地方小学校教育研究会図画工作科部会研修会13名様ご来館
▼26日／「無言館－祈りの絵画展」初日(9／6迄)。十和田市立法奥小学校家庭教育学級児童・保護者・教員22名様ご来館
▼27日／青森県立七戸高等学校森先生ご来館、県高校総合学科研究会打合せ
▼28日／鶴田町民生委員協議会25名様ご来館。青森つみき寮18名様ご来館
▼29日／開館15周年記念常設展「鷹山宇一と七戸ゆかりの画家たち展～鳥谷幡山、平野四郎、上泉華陽」借用作品返却
▼30日／電源地域振興センター当館を取材。大池さいたま市出張(平野四郎作品返却)
▼31日／戸舘館長青森市出張(「青森草子30周年記念の集い」出席)

【8月】

▼1日／開館記念日、町民を対象とした無料招待を実施(利用者128名)。美術館あ～っと！くらぶ「ココットで小物入れづくり」開催
▼2日／七彩会油絵教室
▼3日／七戸町教職員初任者及び赴任者ふるさと研修25名様来館
▼4日／青森放送「無言館－祈りの絵画展」を取材
▼5日／南部藩児童交流事業参加児童53名引率教員15名様来館、作品鑑賞とともに「銀細工」を制作体験
▼6日／毎日新聞八戸支局「無言館－祈りの絵画展」を取材
▼8日／美術館あ～っと！くらぶ「スイーツストラップづくり」開催
▼22日／美術館あ～っと！くらぶ「エコバッグづくり」開催
▼23日／窪島誠一郎氏、鷹山ひばり氏対談会「絵のこと、戦争のこと」開催(聴講者83名)
▼25日／「無言館－祈りの絵画展」会期中の入館者5000人を達成。田子町遺族会14名様ご来館。ITC説明会に戸舘館長出席(七戸町役場本庁)
▼26日／十和田市立法奥小学校4年生児童引率教員23名様ご来館。会計システム打合せ
▼27日／六戸町立七百中学校1年B組生徒引率教員24名様ご来館
▼28日／六戸町立七百中学校1年A組生徒引率教員24名様ご来館
▼29日／全国山林労働組合青森県本部18名様ご来館。七彩会油絵教室
▼30日／WOOD CUTTERS CLUB「オリジナルグラスづくり」開催
▼31日／十和田市立法奥小学校5・6年生児童引率教員39名様ご来館

第4回海外研修旅行「充実の台湾4日間」紀行文

充実の台湾四日間第一夜

高田　明

五月二十一日午前八時半、世界を騒がせている新型インフルエンザの不安も何のその、続々と仲間が乗り込んで来られて、定刻出発。バスは東北自動車道をひた走る。窓の外は青葉若葉が燃え立つばかり、アカシアの白や山藤の濃紫が後へ飛んで行く。田植えの済んだ青田が大きく旋回する。走れ走れ・・・。遂今朝迄の新型インフルエンザの不安は消し飛んでしまった。

仙台空港定刻より少し遅れて午後四時四〇分、エヴァー航空BR一一七便は勇躍離陸する。うす暗い雨雲を突き抜けて、青空に抜け出すと、機は水平飛行に移る。台湾の選りすぐりの美少女であろうスチュアデスが、にっこり微笑んで機内食を運ぶ。台北空港着が夜八時（現地時間七時）であるから、正式の晩飯までの軽い食事である。プラスチックの小さなスプーンとフォーク。豚肉のソースにからめたパスタ、おかずが四種ほどに果物が一と口。食後のコーヒーが終わると、あとは何もない。窓側の明かりで、文庫本東野圭吾の推理小説を読む。

ふと窓の下を覗いて驚いた。びっしりと空き間のない雲海が、うねうねと地の果て（天上界の果て）迄続いている。午後の六時過ぎだというのに太陽が輝いて、まるで銀白の大雪原を思わせる。時々、窓のそばを白い煙の様に雲がかすめると、それが風に吹かれて舞い上がる雪煙そっくりで、私は思わず息を飲んだ。シベリアの大雪原は、こんなだろうかと空想する。これが夕焼けになったらどんなだろうと思う。私は妻にも見せたくて席を替えた。

その夕焼けが遂にきた腕時計は夕方七時を過ぎている。先程の大雪原が何と南海の夕焼けに変わっている。むくむくと続いた雲海は、今なめらかな海原に変わって、金に朱に、真紅の帯に、うっとりと夢のように輝いている。ずっと水平線の先の雲が、南海の孤島のように見える。私はこれほど美しい雲海は生涯もう見ることはなかろうと思う。これを見ただけでも、この旅に出た甲斐があったと思う。

それにしても、禿頭を婆様の脇にぴったりくっつけて、見る方はさぞかし気持ち悪かったにちがいない。（皆さん、ご免なさい）

機は暗い、黒い雲の層に入り、ぐんぐん高度を下げて、遂に台北桃園の上空に出た。桃園の街はオレンジ色の街灯が輝いて、夜の八時半過ぎ（現地時間七時半）と言うのに、うっとりと黄昏色に煙っている。

桃園空港に下り立つ。「転機・過境」航空機乗り替えと、何なく解る。電光文字で「28℃悶熱」とある。まあ28℃だもの、熱いにはちがいないけど悶える熱さとは、如何にも中国らしい表現だと笑ってしまう。

専用バスでホテル喜来登大飯店で小休憩後、欣葉レストランに向かう。台北の夜の繁華街は漢字の海だ。牙治療院、魚屋、肉屋、呉服店等々、だいたい解って面白い。バス、乗用車の間をスクーターが矢の様に駆け抜ける。若い母親が前に二人、後に一人の子供を乗せて走るこの国の交通感覚はどうなってるんだろう。

欣葉着。円卓が回って台北の家庭料理が次々と運ばれる。どれも野菜や豚や鶏を主材にした親しみ易い料理だ。

「ノミモノハ？」とウエイトレスが回ってくる。飲物を聞かれても、壁に品書きが無い、献立表もない。添乗員の太田さんに聞いたら、アルコール類はビールだけとの事。中国系だけに紹興酒ならあるとの事、甘ったるくて、薬味のする酒だけと、それしか無いなら仕方ない。飲んでるうちに陶然となる。隣にいた野田先生も、あれ？ちゃんと酔ってきたぞ！　と仰って、皆が笑う。何だか「桃園」ぴったりの幸せな夜は、かくして深まって行くのであった。

団長の奥山さん、添乗員の太田さん、そして楽しく接して下さった同行の皆さんに感謝したい。謝々、謝々。

高雄の「鳳凰木」

石川みほ

いかにも高貴な名前のこの木は、高雄に無数にありました。花は直径10センチぐらいで5弁、緋紅色、鳳凰の形をしている。落葉高木で豆科、台南市の市木になっているとのこと。

この木を初めて見たのはサウジアラビアのジッタでした。知り合いの奥さんが「火炎樹と言うそうですよ。」と教えてくれました。もう一度あの燃えるような花を見たいと常々思っていましたら6年前タイで発見しました。感激の極みでした。さっそく１００号のキャンバスに大きく描きました。

さて、台北から日本の三大企業の協力で開通したという新幹線に乗って高雄まで、3時間弱で到着。大型船の停泊している港を遠くに望みながら寿山公園にある「忠烈祠」へ、Kさんのお話によりますと、ここには台湾人のみの戦没者を祀っているとのこと。

気がつくと周囲にずい分鳳凰木がある。大小いろいろですが、何と11本もあるではありませんか。！大発見！こんなに見れたことに満足してバスに乗り、少し下り坂を走ってから誰かの叫び声で後を振り返った。何と山々が朱に染まっている。鳳凰木だらけ！日本でつつじ山を見ているよう。皆で歓声をあげた帰路でした。そして街の中を流れている川「愛河」のほとりに一カ所鳳凰木並木がありました。～とてもステキでした。～

乳白色の上品な花をつけるエイライシャン、幹から根を沢山のばしているガジュマル、街路樹として植えられた様々な灌木も美しく台南に続きます。

日本人を母に持つ鄭成功を祀っている延平郡王祠や孔子廟など見学し、台南から新幹線で台北に戻りました。

ああ！なつかしの鳳凰木よ、ごきげんよう、そして強烈印象の「国寶宴」メニューのランチ、朝のおかゆよ、ごきげんよう。

企画してくださった方々ありがとうございました。

ノスタルジックな町「九　份」へ

荒谷正裕

旅行三日目、終日フリータイムは、太平洋に面したかつての金鉱の町「九份」観光コースを選ぶ。朝９時ホテル前に８人乗りのタクシーが迎えにくる。今回の九份班は、小泉さんご夫妻、濱中桂子さんに私の四人連れ。タクシーに乗り込むとドライバー兼ガイドのＱさん（字が分からないのでＱさんにします）が流暢な日本語で出迎えてくれ、一安心する。市内を抜け高速道路に入り、私たちの話題は「立ちねぶた」と「吉幾三」に。すると突然Ｑさんが「それ、吉幾三さんの話でしょう。台湾では、カラオケが大流行。私も吉さんのＣＤを持っています。『酒よ』が大好き」とのこと。意外な所から台湾と青森の結びつきにびっくり。４０分ほどで九份に到着。湾に面した山の斜面にへばりつくようにだんだんの町並みが続く。Ｑさんの案内で坂道を進むと道の両側におみやげ店、食べ物店が軒を連ねる。クレープの皮にピーナツの粉を敷き、アイスクリームを包んだお菓子をほおばりながら、次々とおみやげ店を覗き歩く姿はまさに観光客である。一服のため阿妹茶酒館（あめおちゃ）へ入り、台湾式のお茶をいただく。阿妹茶酒館というお店は、「千と千尋の神隠し」の湯婆婆の屋敷のモデルになった建物とか。なかなか雰囲気がある。小さめのお茶碗でお茶を飲みながら遠くの海をまったりと見下ろす、至福の時を過ごす事ができた。３時間ほどの九份観光であったが、まさに異国の観光を満喫する事ができた。ただ、台湾名物だという「腐った臭いのする豆腐を焼いた食べ物」には手が出ず、今となっては挑戦してみておけばよかったかなと、心残りな気もする。

午後は、小泉さんのお薦めで「暇日玉市・花市」と東洋一高い「台北１０１」へ。

「暇日玉市・花市」というのは、土・日だけ、高速道路の下で開かれ、台湾特産のひすいや瑪瑙、水晶などを屋台のような店で売っているのであるが、それが通路の両側に千軒近く並んだ様は壮観である。専門店で売っている物は手も出ないが、安い物も数多く並べられていたので、翡翠のペンダントを一つ妻に購入。続く花市もこれまた壮観。南国の花々や花器類が所狭しと並んで、目を楽しませてくれる。台湾バナナもおいしかった。

最後は、高さ５０８ｍ、１０１階建てで、現在東洋一のノッポビル「台北１０１」に。さすがに高い。５階までは世界の有名ブランド店やレストランが軒を連ねている。天井の高い４階でケーキとお茶をしながら雨上がりを待つ。行き交う人は当然中国の人だろうが、まず背広を着ている人は皆無。女の人もきらびやかに着飾っている人はほとんど見受けられない事などを話題にしながら、のんびりと台湾ウオッチを楽しむ。雨もあがったようなので８８階の展望所へ。雲が多く視界良好とは言い難いが、台北の町並みを一望。近くに意外に４０～５０階建てのビルの多い事に気付く。台北も大都会という印象だった。観る。飲む、食べる。買う。そして語り合う。すべてに於いて大々満足の台湾フリータイムの１日であった。

旅行あれこれ

杉沢　深雪

マスク姿での台湾への旅。空港でも街中でも見学場所でも多くのマスク姿が目立つ。要注意気分の異様な初体験だった。いつものように日頃の多忙生活を多少ともリフレッシュしようかと気軽に参加。途中「旅行記を・・・」と言われドキッ、メモも取らずにいたので大いに慌てる。選りによってろくに予習もせずに出かけた時は、弱い頭の中はメチャクチャ・・・。写真整理の間もなくおぼろげなままに記憶を辿り記すこととする。

乗り物好きの私の目に飛び込んできたバイク・スクーターの洪水、殆どがキズあり潰れあり、でもさして気にする風もなく２人乗り３人乗りで我が物顔。車の方が隅っこの一車線に押し込まれている。

ガイドの李さんは流暢な日本語を駆使し、台北の日常や国の経済から、歴史は各時代時代を分かりやすく説明し、時には日本人顔負けの辛口ジョークまで飛び出し楽しい時間を過ごすことができた。見学地に降りるたびスリに注意と言われ、にわかに緊張する自分がいた。通りには聞き慣れた日本の地名や会社名が多く目につき、統治時代の名残りとはいえ複雑な思いもした。日本が好きと何度も話す李さんにはあたたかいものを感じた。

今回の旅への期待は十数年ぶりの故宮博物院や高雄の変容・発展、多くの優れた水墨画・彩墨画への出会い・鑑賞であった。メインである世界四大美術館の「故宮博物院」では、音声ガイドを手に広い館内を歩き回った。数多くの名品を鑑賞でき満足できた反面、時間が気になり気持的にはやや曇りであった。ただ故宮晶華レストランでは、展示物の翠玉白菜・肉形石がそのままテーブルに運ばれたかのような錯覚を持つ豪華な食事に、「わあー・・・」「食べるより見ていたい・・」との声も。

正副団長の奥山さん・小向さん、添乗員の太田さん、会員の方々の笑顔に、楽しい旅になりました。感謝です。

九扮半日観光（後半）

玉市・花市・台北一〇一

濱中桂子

小泉夫妻、荒谷さん、濱中4名は日本統治時代、東洋随一の金鉱で栄えた街。映画「非情城市」の舞台として脚光を浴びた街。古い家並み、メインストリートは狭い石段が続き、ノスタルジック街。の散策を終え台北市内に戻った。

ガイドの陳さんに別れを告げ珍道中のはじまり。下車はしたものの方向は全くわからない。さて紀行文を書くことになり、配布されたMaPを広げたが皆目検討がつかない。

下車の際、ここが西門町（シーメンティン）ですといったような気がするがサダカでは無い。真っ直ぐ行けば「花市」です。この左の横断歩道を渡れば「市」があると云われて「？市」に向かった。玉（ぎょく）「石」の市だった。台湾翡翠、サンゴ、水晶、チタン等の装飾品が所狭しと並べられている。細かい細工のアクセサリー等に目を見張る。材料を購入して作り方を習ってる人も多い。立ち止まって見たがすごく手が器用だった。

前日ガイドの李ーさんから「市」での買い物は値段もピンからキリまで、中には偽物、傷物もあるので慎重に（特に高価なもの）とのアドバイスがあり、買い物は控えめに1時間30分位、ブラブラ楽しんだ。昼食時だったので現地の人は皆商品の前で食事をしている。美しい商品のそばで食事等考えられない。国柄なんだなと思う。奥の方へ進むと何か骨董品の店を見つけた。色々掘り出し物がありそうだが、見方もわからないので、目的の「花市」へと向かう。

まさしく「花市」である。「玉の市」とは比べられない華やかさがある。通路を挟み両側　花、花、花。日本でも見られる花もあるが名前の解らない物も多い。珍しい物だったので名前を聞いたが言葉が通じずダメ。

花市の風景

花の外には、肥料、土、農薬、植木鉢等花の栽培に必要な物は全部揃っている。花の種類は胡蝶蘭が目立つ。外はデンドロジュウム、シンピジュウム、ホテルのロビーで見られたポリポジュウム等欲しい物ばかりだが残念。美しい花が多いので生け花池坊の支部が多いのもうなづける。また野菜、果物、漢方薬、日用品なども揃い賑わいのある場所。

「花市」にも大満足し、次に東洋一の高さを誇る「台北101」へと向かう。タクシーに乗り込んだ途端スコールらしき雨。車窓からバイク群団の変身に驚く。常に合羽を準備しているようだ。15分位で「台北101」に到着。まずは4Fまでエスカレーターで、ここで一休み、お茶の時間。今夜も美味しい物が食べられるということで昼食抜きでの散策。一休みして5Fへ展望台への入り口、入場券を買い待つこと10分エレベータに乗り込み88Fまで一気に。先ほどの雨で展望台から見る市内はボヤケている、昨日見た場所を探して見たがよくわからない。

展望台をひと廻り、小泉さんと記念に同じ物を買おうと云うことになり、ペンダントを選び購入。又別のフロアーに足を向けた。天然石の置物、アクセサリー、お菓子とバラエティーに富んだお土産類が沢山ある。そろそろ時間になり戻ることにした。5Fからエスカレーターで降りると4Fはレストラン街、3F～1Fまではブランドものやチョコレートの店が多い。再びタクシーで新光三越に立ち寄り最後の買い物をすませ、ホテルまでは近いので歩くことにした。途中に台北の駅を見ながら半日コース終了。万歩計は10，673歩、意外に少ないと感じた。楽しかった半日コース（後半）の紀行とする。

最後に企画や団長の大役をして下さった奥山さん、添乗員の太田さんに感謝します。私たち2人につきあってくれた小泉さんの旦那様、荒谷さんにも。謝謝（シェ　シェ）

台湾食旅行

中谷知子

私にとって今回の旅行の目的は、ズバリ「食」です。テレビ番組や、台湾に行ってきた人が「日本人の口に合う」などと言うので、この際『おいしい物を食べるぞ！』の気持ちでした。

印象に残った料理をいくつか思い出して書きます。二日目の朝は、何と屋台がいっぱい立ち並ぶ街の中の小さな食堂。台湾風おかゆがバイキング。豆腐や湯波を使ったヘルシーなおかずが多く、楽しみました。昼は故宮博物院の隣のレストラン。博物院で見たヒスイの白菜や豚の角煮といったものが再現されて出てきたのにはビックリでした。中でも「鮑の姿煮スープ」のおいしさに感動。夜は「フカヒレスープ」がこれ又おいしく又々大満足。干物の旨味をここまで引き出す中国四千年？の伝統と技に感じ入りました。このようなぜいたくな食事をする機会は二度とないだろうと思いながら、我が家に戻って質素なおそう菜にほっと一息ついた私でした。

車窓の台湾

野田治夫

私の台湾のイメージと言えば、裸足のすねをまくり上げ、田んぼで水牛を操るおっさんがいたり、天秤棒で荷物を運ぶおばちゃんがいたり、上半身裸で肉体労働に励む若者がいたり・・・。そして、倒産し放置された「むつ市」の動物公園から逃げ出した「台湾ザル」のことから、台湾の神社や公園には野生のサルがいるに違いないと思っていた。

台湾第一の都市「台北」は、ビルが立ち並び日本の大きな都市と全く同じ雰囲気であった。ただ日本と違うのは、バイク、いやスクーターが車を押しのけ四車線も五車線もある大通りを占領していたことである。これはなかなかの圧巻であった。台湾では一台に二人三人は当たりまえ、時には四人も五人も乗るという。そうすればスクーターの方が詰め込みやすいからであろうか。もちろんノーヘルのサンダル履きで・・・。日本では考えられないことではあるが、台湾ではこれが常識なようである。

オプショナルツアーで「高雄」に行ってきた。足は台湾自慢の「高速鉄道」である。日本の技術で製作され、日本の車両を使っているため、スピードも乗り心地も全く新幹線とかわりがない。快適そのものであった。

本家中国でも上海、北京といった大都市は先進国とかわりのない光景だが、都市を離れた農山村ではかなり違った光景が見られたものである。古びた小さな家。中には倒壊しそうに傾いた家。裸足やゴムぞうりで作業する人々。牛馬での農作業、荷車での荷物運び・・・。しかし、台湾ではそんな光景はどこにもなかった。

電車から見える田んぼは、見事に区画整理がなされ日本と全く違いがなかった。「高雄」までの線路の下を片側二車線、四車線の道路が何か所も平行したり交差しており、道路網の整備も相当なものだと感心させられた。

台湾で心を和ませてくれたものの一つに、色とりどりの花がある。赤も紫も橙も、白もピンクもあった。ことに私が心を引かれたのは、黄色い花である。日本にも黄色い草花は無いわけではないが、大きな木に咲く黄色い花は見たことが無かった。中でも「ゴールデンシャワー」という花は、藤の花のように房になり、真っ黄色に輝き見ごたえ十分であった。

台湾最後の夜は、海鮮料理に舌鼓を打ち、台北名物「夜市」というものへ繰り出した。特別な行事のある日でもないのに、通りは人・人・人の波。しかも、若者が大半を占めるという活気あふれる「夜市」であった。何十年か前は日本もあんな活気に満ちた若者の国であったのに・・・。うらやましく思った次第である。

最後に東洋一のノッポビル「台北一〇一」を夜景の中で眺め、その威容に圧倒されてホテルへ帰った。

「台湾ザル」にも「水牛」にも「裸足のおっちゃん」にも「天秤棒のおばさん」にも会えなかった。でも、これが現在の台湾なんだと認識を新たにさせられた旅であった。

会員のお便り

無言館に行ってきました！

十和田市　小向　愼

右？左？無言館の入り口に立って少し戸惑った。教会というよりヨーロッパの僧院といった建物の正面はコンクリートの壁で、少し窪んだところに一歩踏み入ると左右に半間ほどの木の扉がある。

右側の扉を開けた。くぐもった話し声が反響してまるで声明でも唱えられているようだ。人は二十人ほどもいただろうか、若くない男の人が多い。

入ったところから真直ぐに廊下のように部屋が伸びていて中間の左右にウイングがあり、なんか十字架の足元に立ったようだ。

壁に掛けられた絵のほかに、鷹山美術館での「無言館・祈りの絵画展」のように遺品の入ったケースが置かれている。

意外だったのは、飾られた絵が暗いだけじゃなかったことだ。明るい色彩も多いのだ。

七戸でも展示された市瀬文夫氏の、和服洋服混じった三人の女性を描いた大作は全体が淡いくすんだベージュっぽい色で、「褪色したのだろうか？」「絵具が無かったのだろうか？」「時代の色調なのだろうか？」などさまざま思ったのだが、無言館に飾られていた市瀬の似た大きさの同じように三人の女性を描いた絵は、女性の着ているものも背景も鮮やかな色遣いではっきりした絵であった。

戦時中―陰鬱な時代―無念の思い―そのため描かれた絵も暗いもの―と思い込んでいた自分の考えを訂正したのである。

美しいものは美しく、鮮やかなものはより鮮やかに描くことは時代に囚われることなく当然のことなのだ、とあらためて感動した。

興梠武、日高安典、佐久間修、高橋助幹等七戸で見覚えた名前を見たとき、知り人に会ったような一種の懐かしさを覚えた。

無言館より先に本館の信濃デッサン館にお邪魔したが、ここは村山槐多、松本峻介、関根正二などいわゆる「夭折の画家」たちの絵ばかり集めたところであり、無完成の遺り切れなさを抱えて雨の中を無言館への道をたどったのであった。

上田市には古来からの別所温泉があり、棟方志功が信州旅行のおりに描いた常楽寺というお寺さんもあるので一泊してみようと思っていたのだが、いたたまれなさに温泉どころではなく次のバスも待たずタクシーを呼んで早々に退散したのである。

デッサン館の前に奥のお寺の山門があり、行くときは白い猫が二匹、帰りは違う白黒の猫が二匹雨宿りしていた。

・山門に宿借りる猫秋時雨

・こぼれ萩無言館なる遺作の絵

・秋草や無言館への坂の道

七彩会十周年を記念して

七彩会　会長　小川敏雄

平成十一年七月、鷹山宇一記念美術館友の会主催で油絵教室が開かれ、その受講者が始めた油絵同好会「七彩会」は、今年で十周年を迎えました。

七彩会は、毎月一，二回美術館二階の工房をお借りして制作に励み、美術館友の会主催の展覧会見学に参加したり、会員だけで展覧会に出かけたり、公募展に挑戦したりして研鑽を積んできました。その成果を十年目の区切りに総括してみることになり、七月十日から三日間、七戸町の柏葉館で記念展を開催しました。

発足から数年は、十名全員が小品ばかりでしたが、記念展では、三十号以上の作品が二十四点も並びました。元会員の方々の賛助出品もあり、九十点の油絵、会員全員によるスケッチ「七戸町点描」四十四点も展示されて充実した展覧会になりました。

四百人近い来館者があり、多くの好評を得て、会員一同心を新たにして更なる飛躍を誓い合いました。

友の会会員の皆様、一緒に油絵を楽しみませんか。入会を希望される方は美術館までご連絡下さい。

友の会会員登録の更新と「新規会員入会」お誘いのお願い

平素から会員の皆様には友の会の運営に多大なお力添えをいただき、誠にありがとうございます。今後とも鷹山宇一記念美術館への応援よろしくお願い申し上げます。

友の会では会員の皆様方に芸術・文化に一層親しんでいただけるよう研修旅行、講演会などを企画し、微力ながらも地域文化の振興に寄与していく所存ですので、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

○友の会の事業内容

①県内外美術館研修視察旅行（年2～3回）
②海外美術館研修旅行
③美術館作品購入基金への協力
④鷹山宇一記念美術館ボランティア協力
⑤会報の発行
⑥その他（美術講演会の開催等）

○一般会員

会費　（個人）　年度会費　3千円

特典　①無料入館券3枚。会員証提示により入館料2割引き
②ミュージアムグッズ1割引
③研修会、講演会への招待、優待
④他美術館等の視察研修への優待参加
⑤会報の配布

○特別会員

会費　（個人・法人）　年度会費　1万円

特典　一般会員特典に加えて
①会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者1名まで無料入館
②新規加入の方に画集1冊贈呈

○賛助会員

会費　（個人・法人）　年度会費2万円

特典　一般会員特典に加えて
①会員証提示により個人・法人会員とも本人及び同伴者3名まで無料入館
②新規加入の方に画集1冊贈呈
③特別企画展の都度、招待券を贈呈

◇詳しくは、美術館までお問い合わせ下さい。

決定！第5回友の会海外研修旅行

ゴッホ・フェルメール・レンブラントを訪ねて」

2011年4月オランダ・ベルギー美術紀行9日間

第5回友の会海外研修旅行をご案内致します。美しいチューリップが咲く時期を選び、「ゴッホ・フェルメール・レンブラントを訪ねて」と題して巨匠の名画を堪能する「美術紀行」を企画致しました。ベルギーではフランドル絵画の巨人ルーベンスの作品を鑑賞するほか、天井のない美術館といわれるブルージュ等を訪ね、パリではルーブル美術館近くのホテルに宿泊。市内散策も楽しめます。

旅行日程は、平成23年4月10日から4月18日までの9日間です。詳細は別添のパンフレットをご覧頂き、皆様のご参加をお待ちしております。

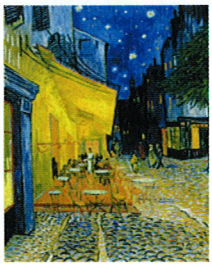
第1次募集締切は、平成22年3月31日です。

募集人員　35名（最少催行人員20名）

ご旅行代金　350,000円

「夜警」　レンブラント　アムステルダム国立博物館

「真珠の首飾りの女」　フェルメール　マウリッツハウス王立美術館



「夜のカフェテラス」　ゴッホ・国立クレラー＝ミュラー美術館

編集後記

★つるべ落としと形容される秋の日の日照時間は短い。初のシルバーウイーク中のある日の午後、パソコンに向かい寄せられた紀行文の編集作業に取りかかった。レイアウト枠を決め写真を取り込み体裁を整え、作業に一区切りついたところで外を見たら夕暮れになっていた。皆様のご協力を得て第56号は通常よりも4ページ増の豪華版となりました。有り難う御座いました。（照井）

●3日目はクレラー=ミュラー美術館でゴッホが歓迎。国立博物館で「夜警」や「牛乳を注ぐ女」を鑑賞。必見のゴッホ美術館も訪れます。

●4日目は、「キューケンホフ公園」で遊歩道を歩きながら花の世界を堪能できます。その後フェルメールの「真珠の首飾りの少女」や「デルフトの眺望」を鑑賞。

●6日目はアントワープでルーベンスの傑作「聖母被昇天」などを鑑賞。天井のない美術館と言われるブルージュでは世界遺産マルクト広場近くのホテルに宿泊。旧市街の散策も楽しみです。

日程表

1日目　平成23年4月10日（日）
午後新幹線で出発→東京駅→成田へ　［ホテル前泊］

2日目　4月11日（月）
成田空港13:30（JAL）直行便→アムステルダム着（17:35）専用バスにてホテルへ　［アムステルダム泊］

3日目　4月12日（火）
国立クレラー・ミューラー美術館、国立博物館、国立ゴッホ美術館・レンブラントの家など　［アムステルダム泊］

4日目　4月13日（水）
花のテーマパーク「キーケンホフ公園」見学。・シーボルトハウス、マウリッツハイス王立美術館見学　［ハーグ泊］

5日目　4月14日（木）
フェルメールの故郷デルフトで陶器工場見学。キンデルダイクの風車群（世界遺産）を見学。アントワープ王立美術館　［アントワープ泊］

6日目　4月15日（金）
ノートルダム大聖堂（世界遺産）、マルクト広場散策後、ゲントの聖バーフ大聖堂へ。ブルージュへ［ブルージュ泊］

7日目　4月16日（土）
ブルージュ　メムリンク美術館、マルクト広場、石畳の街並み見学後、ブリュッセルへ。王立博物館、小便小僧、グランプラス（世界遺産）など見学後、タリス（高速鉄道）にてパリへ移動。　［パリ泊］

8日目　4月17日（日）
夕方までフリータイム。ホテルからルーブル・オルセー・オランジュリー美術館は徒歩圏内。
19:00（JAL）成田直行便にてパリ出発。　［機中泊］

9日目　4月18日（月）
14:00成田空港着→18:00頃東京駅→新幹線で県内新幹線駅へ。めでたく解散！

●東北新幹線各駅から出発し、成田に前泊。翌日ゆったりと出発できます。

●5日目はフェルメールのふるさとで傑作「デルフトの眺望」の川岸にたたずみ、デルフト焼きの陶器工場を見学。その後、世界遺産のキンデルダイクで風車のある風景と出会います。アントワープではフランドル絵画を堪能。

●ブルージュ散策後、ブリュッセルへ見学。その後パリまでタリスで1時間25分。すばらしいパリの一夜を。

●8日目はフリータイム。小さな美術館散策も魅力的。一味違ったパリを想い出に帰国！